

令和4年度学校自己評価表

中長期ビジョン (学校ビジョン)	1個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけ未来を切り開く人間を育成する
---------------------	--

今年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立	3 ふるさとキャリア教育の推進	5 業務改善の取組
	2 基礎学力の向上	4 地域との連携と情報発信	

年度当初					評価結果(9)月		
評価項目	具体的項目	現状	目標(年度末目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	■家庭連絡を適宜行い家庭と連携し、頭髮服装指導に努めた ■昨年度と比較して遅刻者が5%、減少している ■「分離礼」については、定着しつつある。「静止礼」の定着が不十分な面がある	■生徒が主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組める ■遅刻総数を昨年度より10%減少させる ■「分離礼」「静止礼」を習慣化する	■頭髮服装指導の回数の見直しを図り、生徒に主体的に考えさせる意識を持たせる ■問題行動には、保護者や関係機関との連携を密にし、生徒の成長につながる粘り強い指導を行う ■遅刻指導のルールを職員間で確認し、引き続き粘り強く取り組む ■始・終業時での挨拶を徹底し、教職員自ら模範を示し、「分離礼」「静止礼」を定着させる	■頭髮服装指導の回数を減らしたが、実施した月の1回目不合格生徒は昨年度と比較し減少している ■問題行動の対応については、特性のある生徒の問題行動が目立ち各分掌と連携して対応したが、問題行動は繰り返されている ■遅刻生徒数は、昨年度と比較して、約40%減っている ■「分離礼」「静止礼」は徹底できているクラスもあるため、、引き続き各授業等で徹底する	B	■進路意識の向上を図り、日頃から自ら時間厳守や身なりを整えさせ、粘り強い指導を続ける ■生徒の問題行動の指導においては引き続き、保護者への連絡を行い協力を得るよう努める ■授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、授業以外の場面でも教員からの声かけ・挨拶などを繰り返し、定着を図る。2、3年生は1年生の見本となるような行動を身に付けさせ、実社会に適用する所作を徹底させる
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	■月1回の学年会や各分掌と適宜情報交換を行い、生徒情報が共有され、生徒理解に努めた ■教育支援が必要な生徒については、分掌の枠を越え連携し、一丸となって生徒対応をしている ■朝読書の達成率が目標の96%には達しなかったが、前年度より微増した。本貸し出し冊数は増加した。 ■各種人権に関する実態調査(全学年)を実施し、その結果を踏まえ、いじめ防止LHR等を行った ■コロナ禍に対応しリモートでの開催も含め、各種の生徒会行事を実施した	■全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、きめ細かな指導を行う ■ホームルーム活動を通して、円滑な友人関係を育成する ■朝読書の達成率を全学年96%を目指す ■人権感覚を身につけ、いじめのない学校づくりを行う ■部活動も含め生徒会活動を充実させ、学校生活での満足度をアップする	■職員間での連携を密にし、生徒情報を共有し、問題の早期発見、早期解決に努める ■いじめアンケートやハイパー・QUを最大限に活用し、面談や情報共有を行い、生徒理解に努める ■職員間での人権意識と共通理解を高めながら、全教員で連携し、生徒へ人権意識の向上に向けての指導に取り組む ■コロナ禍に対応した部活動や生徒会活動を引き続き継続的に実施する	■個々の生徒の状況に応じて、定期的に面談等を行い、相談室、保健室、SSW、SC等と他分掌、外部機関が連携し、迅速な対応ができている ■6月の朝読実態調査の結果は94.8%であった。(前年度92.7%)昨年度より、読書に取り組む姿勢が良くなった。年度当初、副担任の先生を中心に今後も声かけ等を粘り強く行う ■人権教育全体計画について、より具体的になるよう表現の改善を行った ■ハッピーケイタイ境総合6カ条の変更を行なった。SNS問題や校内不正使用の啓発につながるような活動ができた	B	■ハイパー・QUに関しては10月にも実施し、支援を要する生徒の適切な支援の方法を検討する ■引き続き学年団や各科、関係分掌との連携を密に、生徒の情報収集を図るとともに素早い対応を行う ■今後も読書活動の推進をしていくとともに、各教科と連携をとり、図書館利用を促進する。またICTを利用した読書活動の啓発にも取り組む ■生徒によるスマホ使用の決まり『サカソウ・セブン』のさらなる周知を図る取り組みを考える
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	■マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎学力が徐々に向上している ■生徒が主体となる授業作りに向け、指導者のICT機器の活用方法の研修に取り組んだ	■生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進するとともに、学びに向かう姿勢を育成する ■マナトレや補習等を充実し、基礎学力の定着と向上に努める ■ICT活用の校内研修や研究授業を増やし、授業力の向上を図る	■生徒一人一台端末導入に対応し、生徒が主体となる学びやすい授業作りに向け、ICT機器の活用を更に推進する ■今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努める ■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講をする	■マナトレについては、計画通りすめ基礎学力の定着を図った ■SPIの補習は夏休みに数学科に行っていた 各学年に対し『学研Vステップ模試』を受験するよう指導した ■生徒一人一台端末導入に伴い継続的に職員研修を実施し、教員の授業力向上に取り組んだ	B	■マナトレの効果測定を行い検証し、今後の指導のあり方を検討することが重要である ■引き続き教員研修を実施し、ICT機器を意識的に活用するなど、授業力向上に向け取り組む
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	■4級海技士(航海)3名合格、1級小型船舶操縦士10名スーパー水産農林業士3名取得 ■自動車整備士登録試験、15名全員合格 ■第1種電気工事士2名合格、第2種電気工事士16名合格 ■福祉科介護福祉士国家資格22名合格。10年連続合格率100%達成 ■地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている	■時代にマッチした専門教育を深化する ■将来のスペシャリストの育成を目指す ■資格・検定試験の合格率を向上する ■各科の連携を密にし、総合技術フェア・課題研究発表会での学習成果発表会を充実させる	■専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す ■専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させる	■多くの社会人講師の授業を実施し、実習施設との連携を行い、効果的な学習指導が実施できている ■資格試験の補習を充実し、夏季休業中の補習を実施し、試験対策を行った	A	■引き続き多くの社会人講師の授業を実施し、実習施設との連携を行い、効果的な学習指導を行う ■合格することで生徒が自信をつけ、生徒の自己肯定感を養うため、引き続き講習を継続的にを行い、100%合格を目指すとともに、合格者が増えるよう取り組んでいく
3 ふりさとキャリア教育の推進	キャリア教育の充実	■キャリアパスポートでは、生徒が理解し易いよう表現等を変更し、学期の振り返りや課題研究の取組等の記入ができた ■コロナ禍ではあったが、全ての科でインターンシップを実施し、経験値の向上につなげた ■就職者の1次内定者が91%であった ■保護者と生徒を対象とした「内航船員の仕事説明会」を実施した	■進路指導計画に基づいた指導を徹底する ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導を行う ■進路ガイダンス、保護者説明会の充実を図る ■インターンシップにより職業観・勤労観を育成する	■生徒の体験的学習活動を増やし、経験値の増加につなげる ■キャリアパスポートの見直しを更に推進し、ふるさとキャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識の向上につなげる ■コロナ禍に対応したりリモートによる職場見学や研修なども取り入れ、生徒の学びの機会を保障する	■キャリアパスポートについては、LHRを利用し計画通りに取り組むことができた ■インターンシップ、介護実習をコロナ禍の中、企業の協力のもと機械科、電気電子科、福祉科は実施することができた。残り2科は2学期末に行う予定である	B	■キャリアパスポートの内容を踏まえて、目標や実施後にどんな力を身につけたいかを考えさせたいうえで、キャリアパスポートへの記入ができるように事前指導を行う ■進学希望者に対する指導については、入試の多様化、長期化に対応し、学部学科研究などを努めなければならない
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	■コロナ禍で総合技術フェアは地域への公開が2年連続でできなかったが、食品・ビジネス科の新巻鮭販売では感染予防対策を徹底して販売活動を実施し、福祉科のボカボカコンサートではオンライン配信をするなど、できるやり方で、事業の継続に努めた ■学校独自事業については、鳥取県立学校版感染症予防ガイドラインに則り、感染予防対策を検討し実施したが、海洋科の国際航海など、一部の事業で実施できないものもあった	■地域連携・地域交流活動を通して、生徒に自信を持たせ経験値を上げ、役立ち感、有労感を育む ■地域基幹産業の発展に寄与できる人材を育成する ■手話を学ぶことを通して、障がいに対する理解を深める	■コロナ禍を踏まえ、感染予防対策を徹底し、地域に出かける活動など地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を行う ■ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う ■学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う	■乗船実習において、寄港地活動をスムーズに行うために、簡易検査キットを使用するなど、感染予防対策に努めた ■なかよしオンラインコンサートや、リモートを活用しながら、社会人講師の授業を実践した ■3年ぶりに中野漁村市に参加し、地域貢献活動が実施できた ■依然余子駅の清掃活動や通学路清掃などのボランティア活動が、コロナ禍の影響で自粛し、思うように来ていない	B	■今後もコロナ禍での感染予防対策を実施し、地域や学校、各科にとってメリットの多いイベントには積極的に参加し、地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を行う
	学校教育活動の情報発信	■実習や行事等、マスコミへの情報提供を迅速に行っている ■各科、学年、分掌等の実習や行事等を開催ごとにホームページに掲載し更新した	■特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解を深める ■ホームページによる情報発信の充実を図る	■引き続き、マスコミへの迅速な情報提供やホームページの更新等、迅速な情報発信に努める	■学校紹介ポスターや入学案内パンフレットの増ページなど各科の内容をより詳しく紹介した ■クラスルーム等を活用し迅速な情報提供に努めるようにしている ■公式Instagramを開設し、各科の取り組みをタイムリーに発信した	B	■発信方法や機会を工夫し、引き続き、マスコミへの迅速な情報提供やInstagramでの発信、ホームページの更新等、魅力的な情報発信に努める
5 業務改善の取組	学校業務の精選と効率化	■コロナ禍の影響はあったが、職員間の情報交換を密にし、会議の時間が短縮できた	■会議・委員会の業務を見直し、整理、統廃合を図る ■各会議は内容を精選し、時間短縮に努める	■会議資料を事前に配布し、内容等を把握する ■協議、連絡・報告は、前もって関係分掌と話し合い、必要最小限にとどめる	■学年会では、事前打ち合わせを行い、協議と連絡・報告の時間を必要最小限にとどめることができた ■分掌間では協議、連絡・報告が、前もっての話し合いが不十分で、必要最小限でないときがあった	B	■引き続き学年会が円滑に進むよう、朝の打ち合わせの時間を有効に活用する ■協議、連絡・報告について、事前に関係分掌との話し合いを密にし、会議は必要最小限とする
	長時間勤務者の解消	■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行った ■時間外勤務を月45時間以内、年360時間以内とすることが、ほとんどできている	■時間外業務を月45時間以内とする ■時間外業務を年360時間以内とする	■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う ■時間外業務についての意識を高め、各自適切な時間管理に努める	■コロナ対応、生徒指導対応等では時間の割り振りを行い時間外業務削減に取り組んだが、分掌によっては時期的に月45時間を超える場合がある ■部活・資格指導で徹底できない時もある(休日の大会・受験など)	B	■業務を各分掌や各教科、各科で分担し、時間外業務を削減する